

風土記の丘の花だより²²³

今、そしてこれから見られる植物(2024年2月17日)

急に春めき、暖かい日が続きました。このまま春になるとは思いませんが、そう遠くない感じがしますね。なんとなくウキウキしてきませんか？今回も咲き始めた春の花と、一つだけキノコを紹介します。



バレンタインデーの朝、色鮮やかなカンヒザクラが咲いていました。昨年の記録を見ると「2月21日、1輪のみ開花」とありました。今年は1週間ほど早く開花したことになります。テレビなどは今、各地でカワヅザクラが満開だと伝えています。鮮やかなピンク色の花はソメイヨシノとはまた違う美しさがありますね。このカンヒザクラはそれより更に色が濃く、緋色と言いますが、もはや濃い紅色です。花は半開きで下向きに咲きます。一口にサクラと言っても色々ありますね。これから見頃を迎えます。



花木園などの陽だまりで、キュウリグサの花が咲き出しました。薄い水色のとても小さな花で、2ミリほどでしょうか。それで、しゃがみこまないと見えないほどです。写真のものはまだ咲き始めで、花茎が短いですが、成長すると長く伸びて、先がクルッと巻きます。この草を摘んで手で揉むとキュウリの臭いがするのでキュウリグサと言います。確かにキュウリと言われればキュウリの臭いのようにも思いますが、青い葉を揉むと、だいたいみんなこんな臭いがするのではと、私は思います・・・。



上のキュウリグサに負けず劣らず小さな花です。フラサバソウと言います。みなさんよくご存じのオオイヌノフグリなどと同じ仲間ですので、花の形もとてもよく似ています。写真の花は薄い水色ですが、青から白まで濃淡には個体差があります。ところで、フラサバとはなんぞや？

これはフランスの学者フランシェとサバティエの名前を合わせて、外来植物である本種の和名にしたという、嘘のような本当の話です。



最後はキノコです。と言っても、花びらみたいなのが付いていて、まるで花のようですね。ツチグリと言います。珍しいキノコではありませんが、私は風土記では初めて見ました。これは朝露に濡れた状態です。乾燥していると周りの花びらみたいなのが閉じて真ん中の丸い部分を包みます。露でぬれたり、雨が降ったりすると開いて、刺激を受けると真ん中からモワッと胞子を飛ばします。土の栗という名前も面白いですが、生態も面白いキノコですね。 松下